

# 信越化学工業株式会社

## 2024年3月期第1四半期 決算説明電話会議要旨

日 時	2023年7月27日（木） 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業（株）
会社側出席者	・代表取締役社長 齊藤 恭彦 ・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 福井 真二
参考資料	<a href="#">2024年3月期第1四半期 決算短信</a>

\* このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

### 【決算概要説明（社長 齊藤恭彦）】

- 2024年3月期第1四半期（4-6月期）  
連結売上高：5,992億円（前年同期比 9%減）  
営業利益：1,908億円（前年同期比 24%減）  
経常利益：2,171億円（前年同期比 17%減）  
純利益：1,536億円（前年同期比 17%減）
- 前年同期比では減益となったが、前四半期比では増益。
- 前四半期（1-3月期）との比較を概括すると、生活環境基盤材料での減益は製品価格の下落、販売構成差、為替換算差が主因。電子材料の増益は、主に数量効果。前期、ウエハーの出荷調整に応じたことと、積み荷の遅れによる。

#### [セグメント状況]

- 【生活環境基盤材料】：  
塩ビは、北米で8月と9月にそれぞれポンド当たり2セントの値上げを打ち出した。それ以外の地域でも現在値上げに取り組んでいる。ソーダの市況には軟調さを感じる。米国の住宅建築大手の株価推移に見られるように、住宅建設は上向いている。住宅着工が、5月と6月で140万強～150万戸であったことにも表れている。住宅不足が解消されない一方で、産業分野での建設が活況であるため、北米の需要増に期待している。アジア地域では、やはり中国の内需の弱さに市況が引きずられがちだが、直近で値上げを通してしている。
- 【電子材料】：  
半導体の前工程材料については在庫調整局面が続いた。その中であって、客先との密接な協議を通じて、局面の打開をしている。希土類磁石に対する需要は、HDDで在庫調

整が長引いているが、車載用で復調が見られる。短期的な調整と中長期の基礎需要を分別しながら、能力増強を適切に行い、また品揃えの拡充と高度化を推し進める。

● 【機能材料】：

汎用品の市場はやはり中国の動向に左右されているが、中国での販売も含めて、当社の強みである機能品・特殊品の伸張に注力している。車載用、パーソナルケアおよびヘルスケア向けが伸びている。シリコンの製品構成をさらに高機能品・高付加価値品にシフトし、かつ脱炭素に寄与するために、1,000 億円規模の投資を行う。

● 【加工・商事・技術サービス】：

このセグメントの収益は比較的安定している。

[今後の見通しと株主還元について]

- 経済情勢は常に変化しており、予想は容易ではないが、通期の決算を売上高 2 兆 3,000 億円、経常利益 7,600 億円と予想。
- 年間配当金は分割後のベースで 100 円を予定。加えて、1,000 億円規模の自己株買いを実施。これらのことは、堅固な財務内容に裏打ちされたものであり、資本政策の一環。
- 経済情勢は刻一刻と変化しており、また逆風が今後強まると見込まれるが、事業をさらに伸ばす手立てを着実に講じていく。この予想数値に安住するつもりは全くない。逆風が強まると覚悟しつつも、収益を伸ばす決意に変わりはなく、そこに注力して取り組む。
- この直近 1 ヶ月で興味深いことが半導体素材業界で発表された。改めて競争力の重要性を痛感し、その強化を加速させる。
- 12 年ほど続いた金利を気にしなくてもよい時代が終わり、資金コストが重要な要素になるなか、当社の強みを活かしていく。

**【補足説明（広報部長 福井真二）】**

- 2024 年 3 月期の設備投資額は約 3,800 億円、減価償却費は約 2,400 億円の見込み。
- 経常利益の為替感応度は、1 円の変動で US ドルは年間 41 億円、ユーロは年間 4 億円。

## 【質疑応答】

### 〈生活環境基盤材料〉

Q	生活環境基盤材料セグメントの4Q（1-3月期）から1Q（4-6月期）の収益について
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 前回の決算説明会で述べたシンテック単体の収益見通しは、経常利益で話をしました。セグメントの収益は営業利益なので、そこで若干の差があります。なお、シンテックの営業利益*は、10-12月期と比べて1-3月期は、ドルベースで8%程度の減益です。</li><li>・ セグメントの前四半期比での営業減益においては、為替が大きく影響しています。平均レートは、10-12月（142円/\$）から1-3月（132円/\$）と円高になりました。加えて、第4四半期での円換算のゆがみの要因があります。シンテックの10-12月期の円換算利益は、年間利益から1-9月の累計利益を差し引いて求めますが、この時、前者は年間平均レートを、後者は9カ月間の平均レートを用います。その結果、差し引きで求めた10-12月の円換算利益は平均レート（142円/\$）で求めた円換算利益よりも相当大きくなりました。</li></ul>
Q	シンテックの4-6月期の状況について
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 経常利益で、4-6月期は1-3月期比でやや改善しています。</li><li>・ 価格は北米以外の地域での値上げをし、価格効果が出ました。数量は、1-3月で当社の一部工場で定修を行いました。モノマーの供給元も定修をしていましたが、定修が長引き、定修後の立ち上げでトラブルがありました。その修復がまだ完全に終わっていない状況です。当社自前のモノマー工場はフルに動いているので、そういう中で最大限に収益を保ち、伸ばすべく、製品価格の値上げに取り組んでいます。</li></ul>
Q	アメリカの塩ビ市況について
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 8月、9月で各2セントずつの値上げを発表しました。通常、7月、8月は夏場で需要が弱まる時期ですが、足元の北米需要は安定しているので、強い意志を持って値上げに取り組んでいきます。</li></ul> <p>（モノマーの供給減による塩ビ市況への影響について）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ モノマーの供給問題と、塩ビ市況とは切り離して考えて良いと思います。</li><li>・ 北米以外の地域で値上げを通しており、それが追い風になっています。年初の値上げは思うように進まなかったこともあるので、今年の後半を見据え、値上げを通さなければならないと考えています。</li></ul>

Q	7-9月のか性ソーダの見方について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩ビの稼働が高まると、か性ソーダの市況が緩む事情が多少ありますが、アジアのソーダ市況を見るとようやく下げ止まりました。採算を見て稼働を調整するメーカーがかなり出てきているので、国際市況が反転していくことが期待されます。それを受けて北米のソーダ市況の反転に取り組むタイミングを見計らっています。</li> </ul>

\* シンテックを含む海外子会社の業績は、期ズレで信越化学の連結業績に反映。  
(例：海外子会社の1-3月の業績は信越化学の4-6月の連結業績に反映。)

## 〈電子材料〉

Q	半導体ウエハーの1Q（4-6月期）の市場動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>口径別でウエハー市場の動向は少しばらつきが出ています。面積比で見ると、前四半期に対して300mmはプラス、200mmは減少幅が大きく、150mm以下は低調な状態が続いています。300mmが増加した主な要因は、長期契約の履行状況によるものと思われる。</li> </ul>
Q	半導体ウエハーの2Q（7-9月期）の市場動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1Qに比べて、300mmウエハーはお客様の在庫調整が一段と強化される見込みでマイナス方向、200mmは横並びから微減程度、150mm以下は横ばいとしています。ウエハー全口径の面積比ではマイナスになると見込んでいます。</li> </ul>
Q	半導体ウエハーの中長期的な見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体デバイスの市場は、2021-22年にコロナ禍での仮需により大幅な伸びとなり、足元はその反動を受け増加した在庫の調整に入っている状況です。ウエハー市場はデバイスより遅れて在庫調整に入っていますが、調整の終了はマクロ経済の動向によると思われる。2024-25年以降は、AIサーバーに関する市場が半導体需要増大の主役になると期待しています。</li> </ul>
Q	メモリーと非メモリーでの見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモリーメーカーの方が在庫調整を早く始めていることで、現在も調整は続いているものの年度後半には底を打って反転すると見えています。ロジック等の非メモリーは、顧客により在庫調整を始めた時期にばらつきがあります。</li> <li>過去の例では、ウエハーの在庫調整が一番長かった時期が2回あり、その長さは14ヶ月でした。過去の経験則に従うということであれば、今年12月が</li> </ul>

	その 14 ヶ月目にあたり、来年 1 月からは前年を上回っていくのではないかと期待しています。
Q	米中問題によるウエハーの投資への影響について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当社は日本、アメリカに 300mm ウエハーの生産拠点があり、200mm 以下ではアジア、ヨーロッパにも展開しています。輸出規制を含む様々なリスクヘッジを考え、多拠点展開で影響を軽減していきます。</li> </ul>
Q	フォトレジストとレア・アースマグネットの状況について
A	<p>(1Q の業績について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォトレジストで積み月のズレがあり、やや増益の方向に働きました。レア・アースマグネットについても同様の動きがありました。</li> </ul> <p>(2Q の見通しについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いずれの製品も比較的安定しています。</li> </ul>
Q	EUV マスクブランクスについて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EUV マスクブランクスを使って先端デバイスを作るお客さまの数は比較的限られています。そのお客さまはこの分野で先頭を走り、互いに競争をさせているので、当社はそこに密着して開発努力をしてきました。お客さまによってフェーズの違いはありますが、今まさに評価が進み、いよいよお客さまの生産ラインに組み込まれるところです。</li> </ul>
Q	半導体材料業界の動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同業他社の個別の動きについてのコメントは控えますが、官製ファンドや補助金といった動きについては、一般論で言えば、競争原理がきちんと公正に保たれる必要があると思っていますし、そういう目でこれからも注視していかなければいけません。一方で当社はますます技術を磨き、コスト競争力を高めていきます。当社は資金に関して問題はないので、必要な投資をきちんと行っていきます。</li> </ul>

## 〈全 社〉

Q	アメリカ、中国の輸出規制の影響について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アメリカの輸出規制、それに対する中国の報復的な動きに注視しています。これにお客さまがどう対応されるかが重要ですので、お客さまの見方や実際の発注の仕方をよく見えています。</li> <li>・ 実際に半導体ウエハーやフォトレジスト等の出荷を見ると、今のところ中国のお客さまがより前広に安全在庫を調達する動きがあります。特に先端デバ</li> </ul>

	<p>イスの製造に必要な装置が制約を受けているので、そういったデバイスの製造は中国ではしばらく難しくなる中で、中国政府の方針として、先端以外の分野の生産を大幅に引き上げていく動きが見えており、当社もそれに対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国による対抗措置については、当社はリスク管理の一環として、色々と考えを巡らし手も打ってきたので、その辺りの準備はそれ相応にできていると思います。</li> </ul>
Q	今期（2024年3月期）の業績予想について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>4-6月には電子材料で1-3月の出荷調整や積み荷の遅れなど、特殊な事情がありました。また、シンテックで今秋に大規模な定修があることも念頭に置いて数字を固めました。特に期の後半を厳しめに見ています。</li> <li>数字（業績予想）に満足しているわけではないので、さらに収益を伸ばす努力を鋭意続けていきます。</li> </ul>